

生産者に直撃インタビュー！

＜馬場晴作さん：にこにこ梨の巻＞

豊室の梨団地内、馬場晴作さんの梨畑におじゃました。

1. 5haの広い梨畑の中に、息子さん、奥さん、晴作さんが、パチッパチッとハサミを使う音だけが響いている。

シャキシャキした触感の幸水、ソフトな歯ごたえの豊水など、栽培する梨は数種類。いずれも甘みが抜群だ。

今最盛期を迎えているのは、幸水。

「作業は、朝の4時から夜の9時までかかるんだ」と笑う

晴作さんは、毎日1トンもの梨を収穫している。梨の位置は、

収穫しやすいように、ちょうど人の目の高さほどに枝を結んで調整されている。しかし、首から下げたかごに、収穫した梨を20個ほど入れながら、運搬用の軽トラックまで往復する作業は、さすがに腰にこたえるそうだ。

「梨づくりに休みはないよ」との言葉どおり、12～3月の剪定、枝結び→4～5月の人工授粉→6～8月の摘果、草刈り→9～12月の収穫、堆肥散布と、美味しい梨を口にできるのは、まさに1年がかり。

「せっかくだから、採ってみな」とうながされ、梨とりに初体験。もたされたハサミで、軸を切ろうとすると「ちがうちがう」と苦笑された。熟した梨は、手で実を持ち、軸を上へ傾けると、あっけないほどたやすく、枝からぷきりと離れてしまう。ハサミを使うのは、もいだ梨の軸を切り落とすためだったのだ。

どんな梨をとればいいのか清作さんにたずねると、「にこにこした梨だね」という答えが返ってきた。美味しい梨は、葉も健康で、実も張りがあって、つやつやとしているという。

梨づくり30年以上のベテランは、収穫の喜びにとびきりの笑顔を見せる。

馬場晴作さんの“にこにこ梨”を、ぜひご賞味あれ！

(取材どじょう)

